

## 効率化された空間データエディタ

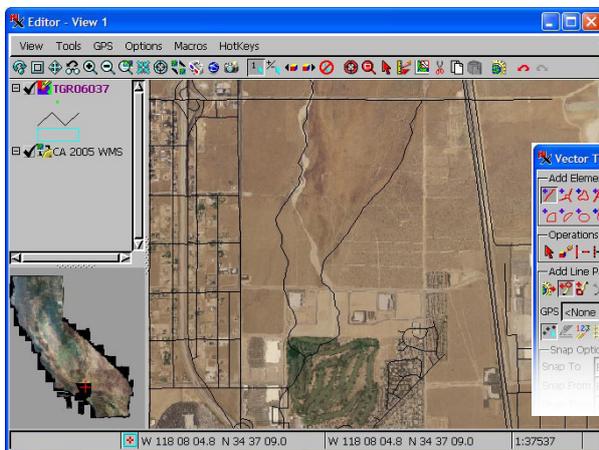
TNT 空間データエディタは、リアルタイムパニングやロケータ表示、インターネットの地図や画像表示、その他表示に関する 2008 年版の新機能を使えるよう修正されました。TNT 空間データエディタを使って、シェープファイルなどをリンクした状態で作成や編集を行うことができます。曲がりくねった複雑な形状を画像の上で度々トレースしなければならない場合、23 インチのワコムスタイラス感応モニターや Windows タブレット PC を使って滑らかに素早く描画をしたり、エラー修正をすることができます。ドロップダウンパネルの採用や表示するウィンドウ数の削減、改良されたアイコンやキーボードショートカットなど、様々な領域でユーザーインターフェースが改良されています。

- リンクしたシェープファイルの直接編集や作成
- リアルタイムパニングでのスムーズな表示画面の移動
- パンやロケータ、矢印キーおよびその他の新機能を使った表示位置の変更
- 参照レイヤとして WMA や ArcIMS からの地図や画像の利用

これらの参照レイヤを使った新規レイヤの作成や更新

米国の 80% の領域に対してマイクロイメージ WMS 2006 レイヤの整備

(米国の 80% の範囲について 1 ~ 2m 解像度の 2006 年度版カラー画像や、多くの州での 2003 ~ 2005、2007 年度データの整備)



WMS レイヤにある新しい道路に対してラインを追加



WMS レイヤとして利用可能な NAIP 正射画像を参照用に使って TIGER ラインデータをエディタで更新。

- タブレット PC やワコム 23 インチモニターのスクリーン上でスタイラスペンを使って直接編集
- ジオリファレンスオブジェクトや、リンクファイルをステレオオーバーレイ表示しながら編集
- 以下のデータを使って、ジオリファレンス済みの画像から立体表示を作成編集

マイクロイメージが提供する 90m グローバル DEM タイルセット

30m 米国 DEM タイルセット

オプション米国 10m DEM タイルセット

ユーザがお持ちの DEM データ

- ドロップダウンパネルによる表示ウィンドウ数の削減
- 編集ツールパネルでのショートカットの採用
- ラインおよびポリゴン編集ツール

スタイルスペンのゴム消し機能を使ったデータの削除や、マウスを使っての描画

頂点の自動挿入と移動

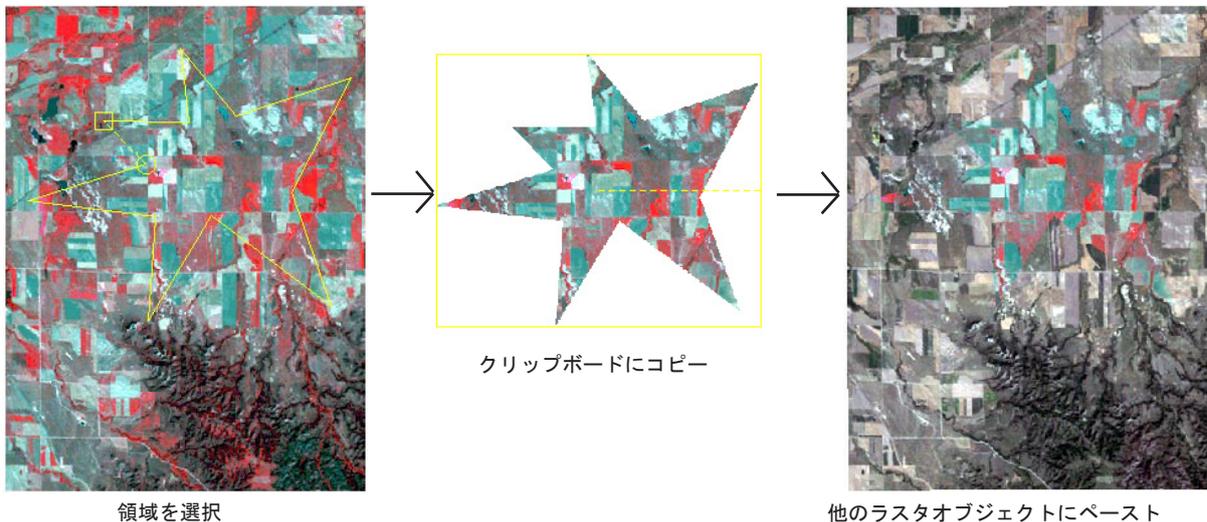
ドラッグしたノードからの距離に比例して他の頂点が再配置される（ラバーバンド効果による曲線の形状の変更）



ノードを移動すると、つながったライン全ての形が変化します。この形状の変化はノードに接続したラインに対して行われ、ノードの移動位置まで伸びます。ノードからの距離が遠いほど、形状変化が少なくなります。

- 要素の選択、カットやコピーと新規あるいは既存オブジェクトへのペースト

CAD やベクタ、シェープ、リージョン要素を CAD、ベクタ、シェープオブジェクトにペースト  
または不規則な形のラスタ領域をラスタオブジェクトにペースト



- 既存のオブジェクトからテンプレートオブジェクトを作成し、保存、再利用

データタイプやジオリファレンス、リレーショナルデータベース構造の複製  
個々の図形要素やラスタのセル値は保持しない

- 国際海図標準（IHO S-57）用のテンプレート

リレーショナルテーブル構造を自動的に定義（オブジェクトの標準テンプレートを使用）  
フィーチャのタイプ（点・線・面）と制限の自動設定  
単一および表形式のレコード表示を使った簡単属性付け